

活動状況報告（11月）

学生留学コース 5期生 酒井 友希

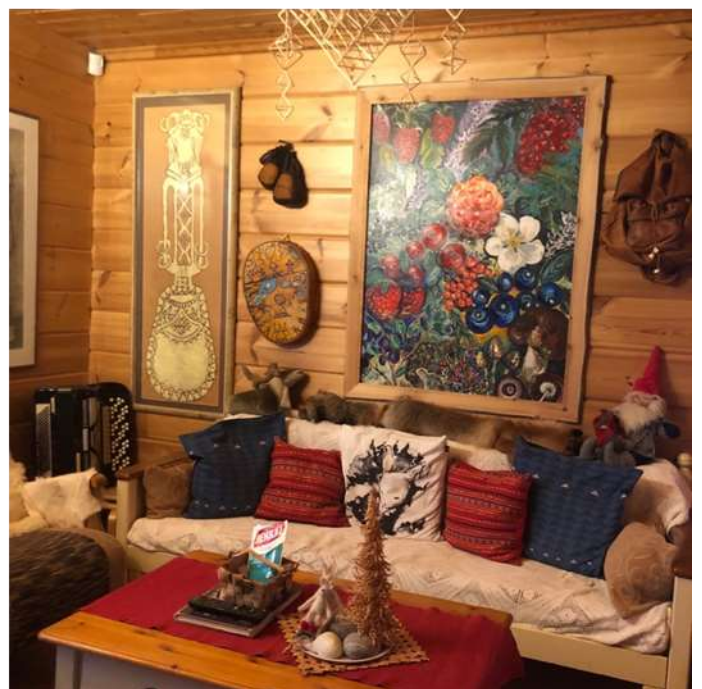
11月になってから日が短くなってきており、15時には外が暗いです。ビタミンを毎日欠かさず摂るようになりました。

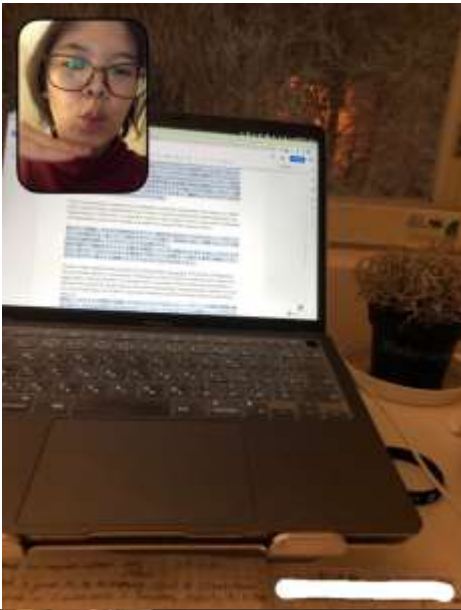
先日、クリスマスの1ヶ月前に行われる、クリスマス Cocktail パーティーにフィンランド人の友達に誘われました。Cocktail はドレスコードのことを指し、フォーマルな格好でみんな行きます。参加者は全員フィンランド人で私も一緒にフィンランド語のクリスマスソングを歌いました。フィンランドらしさを感じられる場面ではおやつなどが全部ビーガン対応になっていたり、お手洗いがユニセックス対応の紙が故意的に貼られているところです。中でもフィンランドの友だちと話していたら “What is your pronoun?”（自分の代名詞は何？）と聞かれ、聞きなれない質問を聞き返し、少し吃りながら “I am a she/her.” と答えました。フィンランドではジェンダーの考え方がかなりオープンなため、相手をいわば「彼・彼女」という呼び方には非常に気をつけています。そのため、ジェンダーについて聞くのは普通なことではあるのですが、私はこの初めて聞かれた質問に対してはどのように答えるか戸惑いました。戸惑いますが、後から心の底からこのようにジェンダーがオープンに話しているのが嬉しく思います。

大学の授業の遠足でサーミ先住民族のワークショップへ行ってきました。遠足では伝統的なネックレスを作る体験、トナカイの角の観察と解説をしていただきサーミ民族についてより詳しく知りました。森の中で一軒ポツンと家があり、クラスメイトたちとワークショップに参加しました。北海道の先住民族の文化体験と通ずるものがあると感じながら、サーミのネックレス作りを楽しみました。教えていただいた女性の方は日本語で「見てください、Yuki さん」と言ってき、以前は日本人の観光客が非常に多かったそうです。森の中にあるワークショップだったので驚きました。改めてちょっと隠れている場所でローカルな体験をすると特別に感じるという気づきがありました。

大学のアート学部の台湾人の友達がいます。その友達は10歳上のお姉さんなのですが、先日11月の中旬にヘルシンキで開催されていたヨーロッパで最大規模のスタートアップイベントに参加していました。参加していたことを聞いたので話を聞きたいと言ったところ、ご飯に招いてもらいました。彼女の分野であるVRで遊び、美味しいご飯を食べました。SLUSHの話、ヨーロッパでアジア人として生活すること等、自分のハングリー精神を改めて奮い立たせるような話をたくさん聞きました。

「中国語専攻でフィンランド留学って確かに変だな・・・。」と思うことが今までは多かったのですが、外国で日本人（アジア人）として中国語を話す強みをよく感じる場面が多いです。どこへ行っても中国語を話す人はいます。中国や台湾の友達は共有できるものも多いため、強いつながりを感じます。





説明等:海外で流行りの Bereal を今月も載せます。右上の写真は友達と電車に乗っている際に一緒に勉強をしている瞬間に通知がきて写真を撮っているところです。右下の写真はヘルシンキの図書館で休憩をしている際に通知がきています。とても、疲れていました。あとの写真は課題をしている様子です。

